五代教主作　灰釉茶盌　銘「天地（あめつち）」「金龍海五大州茶盌」
六盌のうちの一盌（鶴山艮＋鶴山坤 土・本宮山相生松釉）

平成25年(2013)

阿づまの光

2月号・Februaro

題字　出口直日

通巻第527号
発行　大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦

〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL（IP）050-5510-9502
03-3821-3701
FAX　03-3821-5283
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

春風（はるかぜ）の薫（かを）りて諸（もも）の花（はな）ひらく
のどかな御代（みよ）となさしめ給（たま）へ

出口王仁三郎聖師

「美からの門戸」を開かむ！

祭務課長　和田桂一（わだけいいち）

去る一月六日から十二日まで、都内北区王子にある「北（ほく）とぴあ」にて、「出口王仁三郎とその一門の作品展」が催されました。開祖さまの「お筆先」をはじめ、聖師さまの耀盌は二十点、全紙に一気にご揮毫された十二連作の書や、二代さま、三代さま、尊師さま、四代さま、五代教主さまのそれぞれ合計一二八点に及ぶ展示がなされました。さながら大本大博覧会の様でした。そしてその場の雰囲気は、壮観というより、まさに圧倒的でした。やはり実物の耀盌やご真筆を直接目の当たりに拝すると、スウッと惹き込まれたかと思うと、本当に温かくふわっと包み込んでしまわれます。また教主さまは今年の新春インタビューで『東京での作品展は、東日本大震災がありました関係で、〝東にみ救いの光を〟の願いを込めて、お作品を選ばせていただいております』とお述べになっています。

まことに意義深く有り難いお作品展であったのだと、改めて深く思います。

根源から発せられる美に触れると、スッと魂が惹き寄せられ、その気がやがて包容力へと展開され、ついには活動力へと昇華していくのではないかと思います。だからこそ本物の美に接すると、知らず知らずのうちに、勇気と元気が心の底から湧いてくるのではないでしょうか。

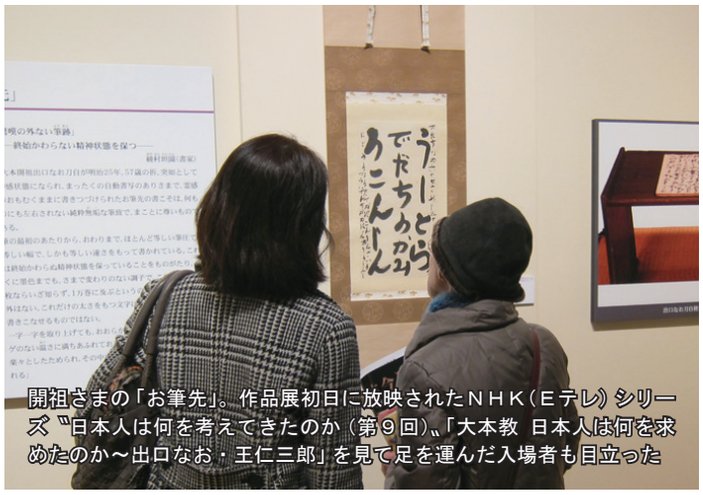
聖師さまは『造化の偉大なる力によりて造られたる、天地間の森羅万象は、何れも皆、神の芸術的産物である。この大芸術者、すなわち造物主の内面的真態に触れ、神と共に悦楽（えつらく）し、神と共に生き、神と共に動かんとするのが、真の宗教でなければならぬ』とご教示くださっています。大自然の造化の前に立つと、誰しも己の小ささを思い、心震える感動と共に元気になる、というのも同じことでしょうか。ましてや歴代教主さま方の神霊の気を凝縮されたお作品に触れさせていただくことは、何よりの魂の浄化とみ救い、そして活動力の湧出へとお導きいただけるのでしょう。どうかこの後、古都鎌倉でも作品展が開催されますので、一人でも多くお誘いいただき会場へ足をお運びください。心ある人々が「美からの門戸」を開かれ、大神さまへとたどり着かれんことを祈るばかりです。

古今独歩 出口王仁三郎とその一門の作品展

魂の煌めき～耀盌と書画～

１月６日から 12 日までの一週間、東京都北区にある〝北（ほく）とぴあ〟において「古今独歩 出口王仁三郎とその一門の作品展 魂の煌めき～耀盌と書画～」（主催：出口王仁三郎とその一門の作品展実行委員会／後援：東京都・産経新聞社）が開かれ、歴代教主・教主補さまのお作品 128 点を展示。期間中 2,322 人が来場した。東京における一門の作品展は、昭和 49 年３月、椿山荘美術館で行われて以来 39 年ぶりの開催。写真は大正 12 年 12 月、石川県大聖寺（現・加賀市）をご親教中に揮毫された全紙 12 幅の書が並んだ

今回の作品展には聖師さまの「天国廿八（にじゅうはち）」や「御遊（ぎょゆう）」をはじめとする耀盌 20 点、茶入・水指各１点と水墨画、書など 40 点が出展された

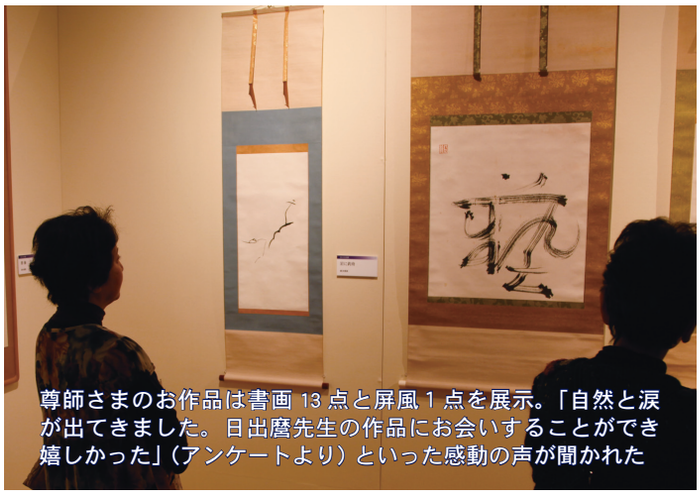


開祖さまの「お筆先」。作品展初日に放映されたＮＨＫ（Ｅテレ）シリーズ〝日本人は何を考えてきたのか（第９回）〟「大本教 日本人は何を求めたのか～出口なお・王仁三郎」を見て足を運んだ入場者も目立った

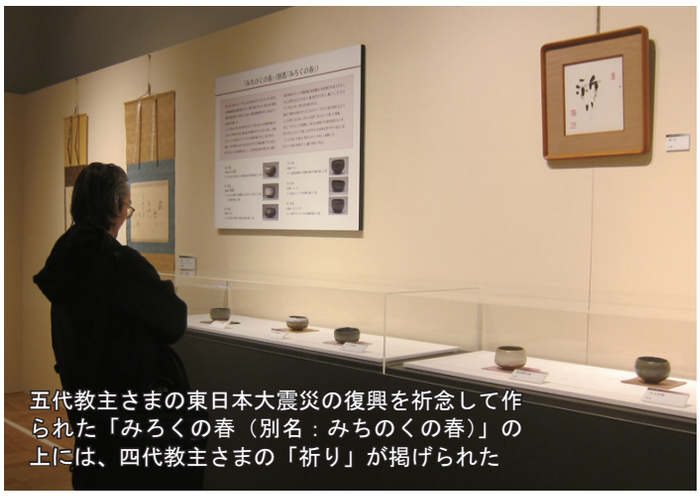
若い世代の入場者には、ツイッターなどネットを通じて足を運んだ人の姿も

日本の伝統文化を重んじ「信仰即芸術即生活の実践」を説かれた三代教主さまの作品は、陶器 27 点、書画 8 点、屏風 1 点が展示された

北大路魯山人が穴があくほど見入ったと言われる二代教主さまの書「よがかわりてんかむるいのへたなじおかく」のほか、茶盌・書画・金屏風・鶴山織物が展示された



尊師さまのお作品は書画 13 点と屏風 1 点を展示。「自然と涙が出てきました。日出麿先生の作品にお会いすることができ嬉しかった」（アンケートより）といった感動の声が聞かれた



五代教主さまの東日本大震災の復興を祈念して作られた「みろくの春（別名：みちのくの春）」の上には、四代教主さまの「祈り」が掲げられた

四代教主さまは 10 点の書と 2 点の陶器が、五代教主さまは鉱泉鉄・松灰釉の引出黒茶盌 3 点（写真）と「みろくの春（別名：みちのくの春）」6 点（写真左）の計 9 点が展示された

入場者アンケートの声

◆どのお作品からも気品、清々しさ、神々しさがあふれ出ていました。ただ、そのお作品の一つひとつの前にたたずみ、胸の奥底から込み上げてくる喜び、うれしさをかみしめさせていただきました。素晴らしいお作品を拝見できて、このような機会を作ってくださったことに感謝します。

（40代・女性・信徒の紹介）

◆十二枚の書の力強さと、器の作品の数々……作品を超えた力を感じました。不思議です。気持ちが引き締まるものや、思わず顔がほころんでくるもの、興味深かったです。やはり何か明確な使命をもった方だと感じました。（40代・女性・産経新聞を見て）

◆書と陶芸についての一般的な関心だけで、何の先入観も持たずに来ました。そして館内を見てまわって非常に強い印象と楽しさを覚えました。陶器の他で見たことのない多才な色合い、形、そして書や絵の独特の個性。新年早々、満足感の高い催し物に出会えて良かったなと思っています。

（70代・男性・会場ロビーのチラシを見て）

◆素晴らしいの一言です。褒め言葉をたくさん並べてしまえば〝うそ〟になってしまう気がするので必要以上には書きません。書、色づかい「極み」の一言です。

（50代・女性・産経新聞を見て）

◆明治の大変革の流れの中で現れた大本の足跡を省みて、果たした役割に感謝です。弾圧に負けず生きのびた日本人の魂を代表する根源的な力を感じました。神の力を信じないわけにはいかない。これからの地球再生に向けて、力を合わせてゆければと思いました。

（60代・男性・チラシを見て）

平成25年東光苑新年祭

平成二十五年癸巳東光苑新年祭は一月一日、午前七時より斎主・森良秀東京宣教センター次長のもと執り行われ、八十四人が参拝した。

祭典後、参拝者全員で教主さまのお写真に年賀のごあいさつを申し上げたのち、教主さまの新年ごあいさつを映像を通して拝聴。最後に浅田秋彦東京宣教センター長が新年のあいさつをのべた。

その後、お神酒接待が行われたほか、食堂では神代餅の直会をいただいた。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・成人式式典は一月十三日、午前十時三十分から、斎主・出口京太郎大本本部相談役のもと執行され、三百九十人が参拝した。

祭員は茨城主会、伶人は宮咩会関東支部、大本神諭拝読は飯田多津子茨城主会長、少年少女祭員は茨城主会の松浦和日くん・片桐詩音梨さん・片桐聖翔くん、添釜は村井社中のみなさんが担当した。

祭典後、浅田秋彦東京宣教センター長があいさつに立ち、前日の十二日まで開かれた「出口王仁三郎とその一門の作品展」の入場者と様子、またNHK・Eテレ放送を紹介しながら信徒一人ひとりの自覚を促したほか、成人式典に出席者に祝辞を述べた。

次いで出口京太郎相談役の講話「愛善エネルギーが世界を救う」が行われ、日本近海で行われようとしている海洋発電やレアメタルといった資源やエネルギーについて紹介した。

続いて成人式典が行われ、はじめに駒形康さん（東京）、佐和山みどりさん（松香）の新成人二人を紹介。続いて鈴木花枝直心会神奈川連合会長より大本本部、直心会、大本青年部からの記念品の贈呈と祝辞が述べられ、最後に新成人二人がそれぞれが今後の抱負を述べた。

出口なお・王仁三郎の世界を語る2013

第百十九回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る２０１３』は、一月十六日午後七時から八時三十分まで、港区新橋の航空会館において、出口眞人大道場講師を迎え「大本の神示と世界の将来―人類への預言と警告―」と題して開催された。参加者は六十六人（内、一般四十三人）。

講座では、出口なお開祖の出生からご昇天になるまでのご生涯を紹介したほか、国祖の大神さまのご隠退とご再現などを説いた。「開祖のお筆先に『因縁の身魂を引き寄せてみろくの世を築く』と示されているように、私たちは我よしの心を改めて良い世の中を築かなければならない」と結んだ。

参加者からは、「開祖の生い立ちと大本開教の流れ、立替え立直しの奥深い意図を学んだ。もっと時間をかけて聞いてみたい（男性・一般）」等の声が寄せられた。

東光苑春季祭式講習会

日　程　３月２３日（土）午前９時より受付
～２４日（日）午後４時ごろ閉講予定

会　場　東光苑（大本東京本部・東京宣教センター）

参加費　１人１，０００円
※ 食事・宿泊代は別途実費を徴収します

内　容　初級クラス　基本動作から月次祭まで
中級クラス　大神鎮座祭・祖霊鎮祭・年祭・合祀祭など
特別クラス　葬祭斎主（誄詞作文）・袍の着付けなどを実習
※ 特別クラスは祭式認定級の試験はありません

持参品　笏、大本祭式の本、帯または紐（懐笏時に必要）、筆記用具、動きやすい服装、足袋（あれば履く方が動作が容易）、宿泊用品（宿泊の方）※ 笏は稽古用を貸与可能

申込み　受講クラス・食事・宿泊を明記の上、大本東京本部祭務課「春季祭式講習会」宛にお申込み下さい

定　員　４０人　※ 定員になり次第締め切りとします

締　切　３月１６日（土）

認定試験　初級・中級の大本祭式認定試験は、昨年９月の秋季祭式講習会をご受講された方が対象となります

東光苑祭典・行事予定

2月

3日（日）午後6時30分執行
節分大祭遥拝祭
二代教主・四代教主聖誕祭

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・豊年祈願祭
市杵島姫命例大祭

20日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題　救世の仕組
～世の立替え立直し～
講師　森良秀（東京宣教センター次長）

23日（土）24日（日）
教本3級認定講習会

24日（日）午前10時
関東教区祭務部長研修会

3月

10日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・春季合同慰霊祭

20日（水）午後2時～3時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題　一つの神、一つの世界、一つの言葉
～みろくの世への道筋～
講師　浅田秋彦（東京宣教センター長）

23日（土）24日（日）
東光苑春季祭式講習会

31日（日）午前10時30分執行
二代教主毎年祭（61年）